

努力しても叶わない？

校長 高橋 祐二

薫風の5月の中で、熱中症により病院搬送される報道が全国各地で続きました。これまで経験したことのない炎天下での運動会。心配していた子どもたちの体調不良もなく、無事に運動会が終了できたことを嬉しく思っています。保護者や地域の皆様には、駐車場や持ち物等、ご理解とご協力いただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

さて、話は変わりますが、ゴールデンウィークに教え子のEさんが、顔を見せに来てくれました。彼女は現在、東京で小学校の教員をしており、二人の小学生の母親でもあります。家に上がり、現在の近況報告をしてくれました。学校での仕事のこと。子育てのこと。かつての教え子の成長に、教師であることの喜びを実感することができました。

その話の中で、とても印象に残ったことがありました。彼女は、小学生のころから勉強もスポーツも、何でも一生懸命にやる子でした。6年生の親善陸上大会では、ハードル走で1位に輝くほど、運動能力もある子でした。その彼女が、中学校3年生の時、人生の挫折を味わったのです。彼女は、高校進学を公立の普通科を希望し受験しましたが、残念ながら不合格となってしまいました。そして、滑り止めであった、私立高校への進学となりました。彼女は中学校時代からバレーボール部に所属し、エースとして活躍したのですが、高校進学当初は、勉強や部活にも身が入らなかったそうです。しかし、入学後、担任の先生や部活動の顧問、クラスメイトや部員などに恵まれ、次第に高校生活に張り合いを感じるようになったそうです。

そして、昔の話を語る中で、しみじみと次のような話をしてくれました。

「先生、私、高校受験に失敗してなかったら学校の先生にはなれなかったかもしれません。私は、希望した高校に入学できず、当初はとてもショックで私立高校へは行く気持ちにはなれなかった。これまで、勉強でも運動でも、自分である程度がんばれば、願いや目標は達成できた。でも、人生の中で、努力したって、希望したりしたって、叶わないことのほうが多いんだよね。だから、自分は、将来、教員になって、努力しても叶わないこともある。けれど、努力することの大切さを教えられる教員になりたいと思って、高校生活を過ごしたよ。」

先日の運動会でも、競技の部は青組の勝利、応援の部は赤組の勝利でした。なんと、応援の部は、わずか1点差だったのです。青組の応援も赤組に負けにくいくらい遜色のない立派なものでした。結果として赤組の勝利だったのですが、両組とも、本当に立派な練習態度、本番での応援でした。

大人は経験として、人生、努力しても叶わないこと、希望しても希望通りいかないことは山ほどあることを知っています。子どもたちに、大人の経験をそのまま教えることは酷なこともかもしれません。しかし、現実として、学校生活の中でも、努力しても叶わないこと、希望しても希望通りいかないことは多々あります。友達関係も、いつも円満とはいかないかもしれません。こんな時、子どもたちにどんな言葉をかけるのか、また指導するのが教師や親の大切な役割ではないでしょうか？子どもたちのこれからの人生は、成功体験より、失敗、挫折の経験のほうが多いかもしれません。そんなとき、そっと寄り添い、軽く肩をたいてあげられる大人でありたいと思っています。これからは、子どもたちの逞しい成長を願い、大人が子どもたちへ応援歌を歌っていこうではありませんか！

先日、朝、校門に立っていると、新発田商業高校の1年生男子生徒が、低学年の男の子を学校まで連れて来てくれました。男の子が登校途中に転んでしまい、鼻血を出していたそうです。高校生が声をかけ、顔をティッシュで拭いてあげ、鼻にティッシュを詰めて連れてきてくれました。私が、高校生にお礼を述べると「大したことはできませんでしたが・・・」と謙虚に笑顔で応えてくれました。まさしく、薫風の季節にふさわしい、爽やかな出来事でした。